



かすみがうら 事典

あ 行

●アサザ

あさざ

多年生の水草で、霞ヶ浦の湖面に浮かんで、夏に黄色い花を咲かせます。水質浄化に貢献しているといわれ、霞ヶ浦湖畔にアサザを定植する取り組みが、市内でも行われています。



●あゆみ庵

あゆみあん

歩崎公園の日本庭園内にあります。数寄屋造りの建物で茶室と座敷広間があり、ボランティアグループによるお茶のサービースを受けることができます。

●歩崎

あゆみさき

霞ヶ浦の西方土浦入りと北方高浜入りとが一緒になる三又沖に望んだ景勝地です。県指定第1号の名勝地にふさわしい眺望で、展望台からの眺めは、左に

行方台地や天王崎を、正面に三又沖を通してはるかに鹿島の森や工業地帯を望み、右手に浮島や稲敷台地をおさめる実にすばらしい景観です。昭和25年に茨城百景に選定され、昭和34年に水郷筑波国定公園の一部に指定されました。

●歩崎公園

あゆみさきこうえん

名勝歩崎に整備された公園です。園内には、郷土資料館や水族館、あゆみ庵、民家園などがあるほか、高台には森林公園が、湖畔には園地が整備され、水と緑あふれる憩いの場となっています。

●あゆみ祭り

あゆみまつり

歩崎公園をメイン会場に、毎年8月16日に行われる一大イベントです。中央ステージでは吹奏楽の演奏や歌謡ショーなどが、青空広場では農水産品の展示販売など、霞ヶ浦湖上では、観光帆引き船、ドラゴンボートレース、打ち上げ花火などのイベントが催され、毎年たくさんの人でにぎわいます。

●稲吉宿

いなよししゆく

江戸と水戸を結ぶ水戸街道の宿場町として栄えた稲吉宿。水

戸街道で唯一当時の旅籠「皆川屋」（現木村家住宅）が残っているほか、大名が宿泊する本陣もあり、往時の面影をしのぶことができます。

●折本良平

おりもとりょうへい

帆引き船の考案者で、かすみがうら市二ノ宮に天保5年（1834年）に生まれました。46歳のときに帆引き船を発明し、自ら多くの漁師たちにその操業技術を伝えました。その結果、霞ヶ浦の漁業は網元を中心とした組織的な操業から、家族を中心とした個人操業へと変化し、沿岸漁民の生活安定に大きく寄与しました。

か 行

●霞ヶ浦

かすみがうら

琵琶湖に次ぐ日本第2位の湖面積を誇っています。広義では、西浦・北浦・外浪逆浦等も含ん

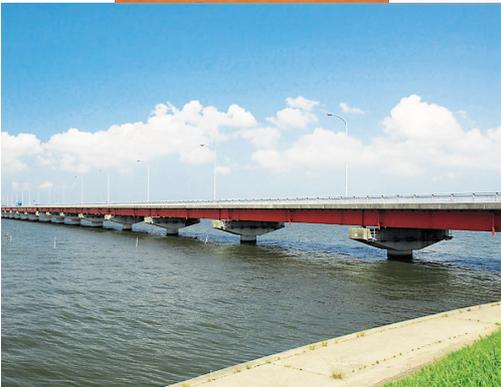


だ総称となっています。最深部で約7メートル、ワカサギ、シラウオ漁などで知られています。

●霞ヶ浦大橋

かすみがうらおおはし

霞ヶ浦に架けられた最初の橋で、かすみがうら市と行方市を結んでいます。鹿行・県南地域の主要横断道路として利用されています。平成17年11月1日から無料開放となりました。



●霞ヶ浦環境科学センター
かすみがうらかんきょうかがくせんたー

第6回世界湖沼会議（平成7年）で提唱された「霞ヶ浦宣言」の精神を受け、平成17年に開館された県の施設です。環境保全に関する調査研究や、環境学習、市民活動の拠点となっています。

●かすみがうら観光大使

かすみがうらかんこうたいし
市のイベントや特産品をアピールするため、3名の観光大使が活躍中です。任期は2年、現在は2代目です。

●かすみがうら市郷土資料館
かすみがうらしきょうどしりようかん

お城をイメージした外観が印象的な、歩崎のシンボルです。帆引き船の仕組みや、昔の漁具・農具などが展示されているほか、市の歴史を学ぶことができます。4階の展望台からは、霞ヶ浦から筑波山、晴れた日には富士山まで見渡せます。

●かすみがうら水族館
かすみがうらしすいぞくかん

霞ヶ浦に生息する魚や、世界の淡水魚などを集めた水族館です。フナ、コイ、タナゴなどに直接触れるタッチ水槽が人気です。そのほかにも、円柱水槽やアマゾンの巨大魚などがある大型魚展示水槽などがあります。



●かすみがうら花の道

かすみがうらはなのみち
市緑化推進協議会やさまざまなボランティア団体が参加して、市道9㉝109号線沿いに花の道づくりを行っています。マリーゴールドなどが市民の手によって植栽されています。



●かすみがうら祭
かすみがうらまつり

かすみがうら市の秋の一大イベントです。市の豊かな文化・食・自然・伝統・歴史・遊び・音楽に触れ、まちの良さを発見・再発見する催しとして、市内外を問わず、たくさんの方が訪れています。

●かすみがうらマラソン

かすみがうらまらそん
国際盲人マラソンかすみがうら大会も兼ねているマラソン大会です。毎年4月に開催され、約9000人が参加しています。多くの市民ボランティアが大会を支えています。

●上稲吉式土器

かみいなよしきぎ
常磐自動車道建設に伴って行われた上稲吉地区の発掘調査で発見された弥生時代の住居跡から、それまでに発見されたことのない模様の土器が出土し、上稲吉式土器と名付けられました。県南の弥生時代後期後半（約1800年前）を代表する土器として位置づけられています。

●神立駅

かんだつえき
日本貨物鉄道（JR貨物）・東日本旅客鉄道（JR東日本）

常磐線の駅です。1日平均の乗車人員は5506人（平成18年度）です。駅周辺には高層マンションなどの開発が進み、かすみがうら市の玄関口となっています。

●果物狩り

くだものがり
フルーツ王国であるかすみがうら市。市内の果樹園では、梨やぶどう（巨峰）、柿、栗、イチゴ、ブルーベリーなど、1年を通して果物狩りを楽しむことができます。



●栗

くり
茨城県の栗は、全国1位の収穫量を誇っています。その県内において第2位の収穫量を占めているかすみがうら市。量だけでなく味もピカ一と評判です。

●「恋するトマト」
こいするとまと

俳優の大地康雄氏主演・監督の映画。市内の安食小津集落地内を中心に撮影が行われました。県内各地とフィリピンを舞台に、農家青年の家族愛と恋愛、農業に対する挫折と情熱を描いた作品です。

●コミュニティバス

こみゆにていばす
平成18年10月より運行を開始しました。水色の車体がさわやかなノンステップ型のバスで、市役所や主な公共施設を結ぶ市民の足として活躍しています。

●「米」
こめ

「ひめゆりの塔」「青い山脈」「どっこい生きてる」など社会派の巨匠として知られる今井正監督の代表作。霞ヶ浦で帆引き網漁を営む若者の淡い恋心が、水郷の美しい四季とともに描かれています。昭和32年のカンヌ映画祭コンペティション参加作品です。



さ

サイクリングコース

さいくりんぐこーす

恋瀬川サイクリングコースと霞ヶ浦サイクリングコースがあり、霞ヶ浦に突き出た半島の先端を起点に、全長35キロメートルにわたって整備されています。霞ヶ浦湖岸から恋瀬川沿いを走り筑波山を望む景色が人気です。

少年のつばさ

しょうねんのつばさ

市の中学生海外派遣事業です。国際感覚を養い、郷土や国際社会の理解を深めるため、夏休みを利用して中学生をオーストラリアのマントリー市へ派遣し、現地校との交流やホームステイを行っています。

た

地産地消

ちさんちしょう

地元でつくった産物を地元で消費していくこと、市では中小学校の給食で、地産地消に取り組んでいます。米飯給食においては、市特産のコシヒカリを100%使用しているほか、地元産の野菜やフルーツ、霞ヶ浦産

のナマズなどを使ったメニューで、子どもたちに喜ばれています。

千代田石岡インターチェンジ

ちよだいらいしおかいんたーちえんじ

常磐自動車道のインターチェンジで、三郷ジャンクションから54・7キロメートルの距離にあります。都心とかがすみがうら市を約1時間で結んでいます。



佃煮

つくだに

全国2位の湖水面積を誇る霞ヶ浦と、それにつながる北浦の周辺地域では、湖産のハゼ、エ

ビ、ワカサギ、フナなどを使った佃煮・煮干・焼きもなどの水産加工品が盛んにつくられてきました。佃煮の歴史は古く、江戸時代から始まったと伝えられています。

ドラゴンボートレース

どらごんぼーとれーす

雄大な霞ヶ浦を舞台に、龍の形をした12メートルのボートが白熱したレースを展開します。現在、日本全国の十数カ所で大会があるほか、香港では国際大会も開催されています。かすみうら市では国際レース用の舟を使用し、霞ヶ浦大会（7月）とあゆみ祭り大会（8月）の2回、迫力満点のレースを展開し



ています。市では、ドラゴンボートの貸し出しや教室も開催しています。

な

梨

なし

県の銘柄産地に指定されています。市では、100年以上も前から梨が栽培され、県内でも指折りの産地となっています。水分が多く、甘味と酸味の両方を持つため、疲労回復や夏バテに効果があるといわれています。市内では8月中旬から10月下旬まで、梨狩りを楽しめます。

成沢の山桜

なるさわのやまざくら

約3000本の山桜が群生しています。人の手が加えられていない自然のままの美しさから、茨城の自然百選のひとつに選ばれています。

は

フィルムコミッション

ふいるむこみっしょん

都心から近距離にあり、変化に富んだ自然や農村環境が多くあることから、市内で映画やドラマの撮影が行われています。

富士見塚古墳公園

ふじみづかこぶんこうえん

富士見塚古墳は、6世紀初めの築造と推定される前方後円墳で、全長は78メートル、県内多数の規模を誇ります。丘陵ふもとの展示館には、古墳から出土した家型埴輪や、全国的にも珍しい鹿や犬、円形埴輪などの副葬品、発掘調査の説明パネル等が展示されています。



ブルーベリー

ぶるべりー

もともと果樹栽培が盛んだったかすみうら市で、近年新しく栽培が始まりました。今では県内有数の産地として知られ、熟した実を自分で摘んで食べるブルーベリー狩りが人気です。ジャムやアイスクリームなどの特産品もつくられています。

かすみがうら事典

● 帆引き船

ほびきせん

かすみがうら市に生まれた折本良平氏によって考案され、明治13年に初めて霞ヶ浦に浮かびました。昭和40年ごろからトロール船が主流となり、まもなく姿を消しましたが、霞ヶ浦漁業の歴史を知る上で極めて重要な文化的遺産であることから、昭和46年に観光帆引き船として復活しました。随伴船に乗ると、優雅に走る帆引き船を間近に見ることが出来ます。



ま行

● 三ツ石森林公園

みついししんりんこうえん

里山の豊かな自然に触れることができる公園です。もりの小屋からは、市の全景はもちろんのこと、牛久や鹿島方面まで見渡すことができます。園内は遊歩道で結ばれていて、見晴らし広場や芝生広場、水の広場などの施設があり、季節ごとにアジサイやヤマツツジ、ヤマハギなど四季折々の花を楽しむことができます。

● 未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選

みらいにのこしたいぎよぎょうぎよそのれきしじぶんかざいさんひやくせん

農林水産大臣認定によるもので、全国の漁村に残る歴史的、文化的に価値の高い施設や貴重な工法や様式の施設が対象となります。観光帆引き船として帆引き網漁を復活させ保存している取り組みが評価され、霞ヶ浦の帆引き船が認定されました。

● 民家園

みんかえん

江戸時代中期に建てられた住

や行

● 雪入ふれあいの里公園

ゆきいりふれあいのさとこうえん

雪入山の地形を利用してつくられた公園です。ネイチャーセンター内には、森を模したジオラマ展示室や立体ハイビジョンシアター、テラス、園内観察カメラなどがあります。さまざまな自然体験イベントが開催されています。展望広場からは、雄

宅と江戸時代末期の板倉を移築復元したもので、歩崎公園内にあります。茅葺き屋根に曲がり屋など、当時の民家の特徴をよく伝えています。

ら行

● レンコン

れんこん

県の銘柄産地に指定されています。霞ヶ浦でのレンコン栽培の歴史は古く、江戸時代にさかのぼります。現在も霞ヶ浦周辺で生産されるレンコンは、作付け面積・収穫量共に全国1位。2位の徳島県とほぼ2倍の差を付けています。

